

## 平成29年度第2回定時評議員会議事録

- 1 日 時 平成29年12月22日（金） 午前10時00分から10時50分まで
- 2 場 所 小平市美園町1丁目8番5号 小平市民文化会館会議室
- 3 出席者 磯崎澄（議長）、磯山亮、伊藤俊哉、今井美代子、緒形まゆみ、田村浩三  
遅参による出席者 なし  
欠 席 者 なし  
理 事 教山代表理事  
事 務 局 近藤事務局長兼総務課長、神山事業課長、玉井事業担当係長  
男澤ふるさと村担当係長、杉本管理担当係長、益子総務担当係長

### 4 議 題

第1号議案「公益財団法人小平市文化振興財団平成30年度事業計画（案）について」

### 5 議事の経過とその結果

午前10時00分、磯崎議長が開会を宣言した。

#### (1) 定足数の確認

近藤事務局長兼総務課長（以下「近藤事務局長」という。）より、会議成立に必要な定足数について、評議員現在数6名、会議の定足数4名のところ、本日の出席者6名という報告があり、定款第19条の規定により定足数に達しているので会議は成立している旨が確認された。

#### (2) 署名評議員の選出

磯崎議長が、議事録署名人として磯山評議員を選出する旨を諮ったところ、全員異議なく、磯山評議員が選出された。

#### (3) 第1号議案「公益財団法人小平市文化振興財団平成30年度事業計画（案）について」

磯崎議長の求めに応じて、神山事業課長から次のような説明があった。

現時点では、まだ交渉調整中のものあり、日程や出演者が確定していないものもあるが、今の時点で実施の見通しとなった計画について説明させていただく。市民文化会館は61事業、小平ふるさと村は46事業をそれぞれ予定している。

はじめに、市民文化会館について、説明する。平成30年度小平市民文化会館自主事業計画である。今年度も3つの事業目標を掲げ、事業を計画した。一つ目が、ルネこだいら開館25周年事業の実施である。開館25周年を記念して、年度を通して祝祭感を出しているが、特に人気、要望の高い公演として、外国のオーケストラ公演、全幕物バレエ公演、知名度の高いピアニストのリサイタルを実施する。二つ目が、吹奏楽のまち小平の推進である。吹奏楽の魅力を多彩なラインナップで展開する。好評をいただいている楽器クリニックを継続実施するほか、プロの演奏会、中・高校吹奏楽部の定期演奏会を集中開催する吹奏楽フェスティバルなどを実施する。三つ目が子育て世代向け企画の充実である。若い世代へのアプローチとして、子育て世代が家族そろって楽しめる企画

を実施する。

つづいて、A3横の「平成30年度小平市民文化会館自主事業 種別・月別計画表」(案)である。表の左の欄が、鑑賞事業である。5月は、フジコ・ヘミングのピアノリサイタル、劇団四季の「ソング&ダンス65」を実施する。6月は、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団の公演をチェロ奏者の堤剛さんをお招きし実施する。また、親子向けの音楽の絵本チェンバーオーケストラを実施する。9月は、要望の高い錦織健のリサイタルを実施する。11月には、こちらも人気要望の高い能狂言鑑賞会を野村万作、萬斎をお招きし実施する。12月は、要望の高いバレエ全幕物として、サンクトペテルブルグアカデミーバレエの「くるみ割り人形」を実施するほか、親子向け公演として人形劇団むすび座の「アラビアンナイト」を実施する。2月は、前橋汀子のヴァイオリン・リサイタル、3月は親子向けとして、NHKで人気の「ガラピコぷ〜」を予定している。この他、人気の落語の公演としては、気軽に楽しめる千円寄席「ルネお笑い演芸館」を4月と11月に、寄席の公演を9月と1月に、計4公演を予定している。平日夜の1hourコンサートは、今年は館野泉を迎えて、10月、11月、1月の3回実施する。また、平日昼間のランチタイムコンサートは、5月、7月、9月、11月、3月の5回実施予定である。

次に啓発系事業では、「ルネこだいら夏休みフェスタ」のほか、アウトリーチの出前コンサートは小学校を対象に、吹奏楽を6校程度実施する予定である。この啓発事業については、「吹奏楽のまち こだいら」事業として東京消防庁音楽隊、陸上自衛隊中央音楽隊の演奏会のほか、3月に「都響プレミアムコンサート」を予定している。

続いて、育成支援事業については、例年実施している4月の「春の高校演劇スペシャル」、5月の「こだいら雨情うたまつり」、7月の「市民ふれあい音楽祭」、9月の「市民ピアノリレー」、12月の「こだいら市民合唱団演奏会」の5本を予定している。「吹奏楽のまち こだいら」事業としては、10月に、ぱんだウィンドオーケストラによる楽器クリニックと演奏会を実施する。3月の吹奏楽フェスティバルは、今年度に引き続き、市内の中学・高校の吹奏楽部の定期演奏会を集中的に実施し、吹奏楽のまちこだいらの機運を盛り上げていきたいと考えている。

次に、歴史的文化の継承・地域振興事業であるが、「みんなのまちこだいら児童絵画コンクール」、「丸ポストフォトコンテスト」、「ルネフォトコンテスト」の展示系の3事業を予定しているほか、今年、平櫛田中彫刻美術館との連携で行った展示室での滞在制作と同様の事業について、調整を行っている。

最後に、施設の管理運営事業では、「避難訓練コンサート」を、大ホールで警視庁音楽隊を招き「テロ対策」をテーマに実施するよう調整している。小平市からの受託事業については、教育部地域学習支援課から成人式1本を予定している。

以上、ルネこだいら全体では61本の自主事業を予定している。

現時点での小平市民文化会館の実施予定の概要は以上である。

次に、小平ふるさと村について説明する。平成30年度小平ふるさと村事業計画である。今年度も3つの事業目標を掲げ、事業を計画した。一つ目が、地域の歴史・伝統文化の継承事業である。地域の歴史や伝統文化を楽しむ行事を実施する。二つ目が、地域の振興と「にぎわい」の創出である。来園者が楽しめる「にぎわい」のある行事を行い、多くの方が小平ふるさと村に訪れる機会を創出する。三つ目が、開園25周年事業の実施である。年間を通して、お祝いの雰囲気を取り込み、祝祭感を演出するとともに、来園者への感謝の気持ちを表す。

続いて、「平成30年度 小平ふるさと村 種別・月別計画表(案)」である。

はじめに、表の左側「郷土の歴史的文化の継承に関する事業」である。郷土学習事業としては、4月に「柏もち作り」、5月に「紙の鯉のぼり、かぶと作り」、8月に「竹細工」、9月は、「手打ちうどん作り」、3月は、「ゆでまんじゅう作り」などの事業を実施する予定である。また、12月は、「もちつき体験・鏡もち作り」、2月は、「節分の豆まき」といった、日本の伝統行事を行う予定である。参加型事業としては、6月に「子どもペーゴマ大会」、1月に「昔話とかるた・昔遊び」を実施するほか、11月を除く第三土曜日に、紙芝居サークルとの共催事業で「紙芝居を楽しもう」を実施する。また、11月には、「昭和の結婚式」を、公募にて挙式者を募集し、引き続き実施する予定である。展示事業については、「鯉のぼり・五月人形の展示」、「盆棚飾り」、「十五夜飾り」、「亥の子のぼたもち」、「エベスコ」、「まゆ玉飾り」、「ひな人形の展示」等の小平に伝わる年中行事を季節ごとに行う予定である。

続いて、右側の「地域の振興に関する事業」である。来年度においても、小平ふるさと村の特性を生かした事業を実施し、小平ふるさと村に賑わいを持たせるとともに、地域の振興を図っていく。主な事業としては、4月に、小平市がたけのこ公園などで行う「花まつり」に合わせて、鈴木ばやし保存会、武蔵野うどん保存普及会、小平市茶道華道友の会などと連携し、「花まつり」を開催する。7月は、日本将棋連盟 小平支部と連携し、「夏休み子ども将棋教室」を引き続き実施する予定である。8月には、夏の風物詩として定着した「灯りまつり」に合わせて、鈴木ばやし保存会、武蔵野うどん保存普及会、市内の大学と連携し、灯りまつりの会場の一つとして参加する。9月には有料の公演として「古民家コンサート」、11月には武蔵野手打ちうどん保存普及会との共催で「麦まき日待ち秋のまつり」、3月には「小平ふるさと村寄席」などを行う予定である。また、「よさこい踊り」についても、7月下旬に実施予定である。この他、通年の事業として、観光案内を行い、また、特産品販売事業として、市内事業者の特産品の販売や、JA東京むさしとの協力による小平産ブルーベリーの販売も引き続き実施していく予定である。なお、今月にJA東京むさしが実施した市内産の花苗などを販売する「園芸大市」も大変好評であった。このように、他の機関と連携した取り組みも検討、調整していく。

以上、来年度においても、小平市及び小平市文化協会をはじめとした関係団体とも連携して、合計で、46事業を予定している。

以上が現時点での小平ふるさと村の実施予定の事業の概要である。

説明は以上である。

事務局からの提案説明後、審議に入った。その要旨は次のとおりである。

田村評議員 30年度自主事業では、大ホールの事業が増えている。25周年の節目の年度に合わせ、集客力・利用者数をさらに上げることを目的とした計画なのか、そのあたりの経緯について教えてほしい。

玉井事業担当係長 自主事業の計画は、ホールの規模ありきではなく、公演内容を決めた後に、集客力に応じたホールを選ぶことが多い。そのため、公演の集客力の適正範囲を考慮し、700名程度を見込めれば大ホール、400名前後であれば中ホールなど、振り分けている。30年度は、25周年でもあるため、祝祭感を出すために要望の高い公演や、知名度の高いアーティストを選んだ。結果的に集客力の大きな事業が増えている。

今井評議員 今月、ルネこだいらでは、人権週間行事として、桑田真澄氏の講演会があった。この事業は、どういう経緯でプランニングされたものなのか。

神山事業課長 12月8日（金）に、第69回人権週間行事「講演と映画の集い in 小平」が実施された。この事業は、当財団の自主事業ではなく東京都が主催したもので、当会館は、貸館として利用されていた。事業内容については、当財団と調整はなかった。集客としては、700人前後あったと聞いている。

磯山評議員 1点目として、事業目標の中に、「吹奏楽のまち小平」の推進、子育て世代向け企画の充実とあるが、これらを事業目標とした理由について伺いたい。2点目として、議会の一般質問でも取り上げられているが、ルネの正面階段を使った結婚式の企画は検討していないのか伺いたい。

神山事業課長 1点目について、「吹奏楽のまち小平」の推進であるが、これは、ルネこだいらの事業目標の柱でもある。市内には、全国大会常連校が複数あるなど、吹奏楽が盛んなまちである。特に、小平第三中学校吹奏楽部の全国大会2年連続金賞受賞をはじめ、小平第六中学校の日本管楽合奏コンテストにおける最優秀グランプリ賞及び文部科学大臣賞の受賞など、高い実績も積み上げている。吹奏楽の事業は学校との連携も充実しており、地域の方の関心も高い。この事業は、単年度ではなく、継続的な支援をしていく必要があると考え、事業目標とした。

続いて、子育て世代向け企画の充実である。安定した利用者である友の会会員は、高齢化が進んでいる。最も多くを占める年齢層が、70歳代であるため、退会される方が増えている。今後も、安定的な集客を維持するためには、新たな世代の取り込みが必要であると考え、子育て世代向けの企画の充実を事業目標とした。

2点目について、ルネこだいらを会場とした結婚式であるが、現在、結婚式に関する事業について、ふるさと村で昭和の結婚式を実施している。昭和の結婚式をコーディネートしている委託事業者に、結婚式全般に関する情報収集を行っている。結婚式会場として、ルネこだいら以外に、市役所や街婚と言われる商店街などで行う人前式の結婚式など様々な手法について聞いている。今後も必要な情報を収集し、研究していく。

伊藤評議員 30年度は、25周年という節目の年度となる。事業目標として、個別の事業展開についての説明はあったが、年間を通じたプロモーションも必要になるのではないかと。また、大きな節目であることを考えると、これまでの歩みを振り返り、実施してきた事業等を整理する必要もあるのではないかと。

神山事業課長 30年度の事業は、祝祭感の高い華やかな事業を展開しつつ、25周年の記念ロゴマークを作成し、共通のPRマークとして扱うことで、年間を通じたプロモーションとしての相乗効果を狙っている。また、ルネこだいらの歴史の整理は重要であり、これまでの振り返りを何らかの形で残せるよう検討したい。

緒形評議員 ぱんだウィンドオーケストラは、全国的にも人気がある。楽器クリニックや合同演奏会、出前コンサートなど素晴らしい企画だと思う。実力のある団体なので、好評を得られると思う。また、陸上自衛隊音楽隊は、航空中央音楽隊と並ぶほどの実力があり、素晴らしい演奏が期待できる。意見としてだが、25周年のプロモーションとし

て、ホールの通路等に、25周年を祝うリボンやフラッグを掲げてみてはどうか。

神山事業課長 吹奏楽について、ぱんだウィンドオーケストラは、東京芸術大学の卒業生や、現役大学生で構成される年齢層が若い団体である。これまでの雰囲気フレッシュで若々しいものへと変えていく狙いがある。25周年を祝うリボンやフラッグについて、貴重な意見をいただいた。今後、検討させていただく。

磯崎評議員 25周年の自主事業は、要望の高い公演や、知名度の高いアーティストを企画するなど特色があるが、演者のコストが高くなるのではないかと。経営面について伺いたい。

神山事業課長 ご指摘のとおり、大きな事業は公演料が高くなる。高い公演料が必要となる事業の実施は、大きな赤字を出すリスクを伴う。そこで、30年度は、そのリスクに対応するため、共催事業を増やした。共催事業であれば、財団は、ホールの利用料金程度の負担で収まる。事業の収支については、そうしたバランスを考慮した。

他に質疑はなく、磯崎議長が議案の承認を諮ったところ、全員異議なく本案は原案どおり承認された。

#### (4) その他

##### ①「数値目標」について

近藤事務局長から、次のような報告があった。

前回の第1回定時評議員会において、当財団の報告事項として、「ステップアップ実行プログラムと数値目標」について報告した。その際、平成26年度以降の「数値目標」の設定について、当初の考え方については、事務局職員の人事異動に影響されず財団の運営が継続的なものとなるよう、考え方を確認しておく必要があるという意見をいただいていた。そこで、前任の担当者に確認したので、報告させていただく。

1点目、「数値目標」の設定の考え方である。各種「数値目標」は、平成25年度以前の実績の推移をみて、数%程度数値を引き上げたものである。

2点目、「ルネこだいら友の会の会員数」については、過去の推移が年度ごとに、大きく変動していたため、前年度以前の数値に数%程度を引き上げる方法とせず、過去最高の実績である平成19年度の3,409人を上回る3,500人とした。

3点目、「数値目標」については、達成に至らなかったとしても可能な限り目標に近づくよう努力するという意気込みで設定した。

今後、事務局では確認した内容を受け、当財団の運営が継続的なものとなるよう「数値目標」を職員全体で情報共有していく。また、「数値目標」は、事業の実施状況の把握に必要な客観的な指標として、引き続き達成できるよう経過を管理していくものとする。

事務局からの報告後、質疑があった。その要旨は次のとおりである。

田村評議員 30年度は、「数値目標」を掲げた最終年度である。次年度以降は、次の「数値目標」を設定する必要がある。本来「数値目標」は、実績値を一律に数%程度引き上げて設定するものではなく、組織のあるべき方針を検討し、達成に向けた目標管理をするための指標である。次回の「数値目標」の設定は、組織の方針を反映したものとな

るようにしてほしい。

近藤事務局長 現在の「数値目標」は、平成26年度から設定されているものだが、それまでは「数値目標」自体を持っていなかった。実際に目標を設定したことにより、課題が見えてきた側面もある。今後は、財団の方針を反映したメリハリのある「数値目標」を設定していく。

磯崎評議員 会社経営者の視点から言えば、「数値目標」の設定には、外部環境の変化を考慮する必要がある。例えば、社会環境の変化として、高齢化が挙げられる。こうした外部環境の変化は、財団はコントロールできない。現状維持が困難な場合もある。外部環境の変化に応じて取り組み内容を変え、「ここに力を入れていく」という、組織の意図を織り込んだものにする必要がある。

伊藤評議員 「数値目標」が先に議論された背景として、潜在的な考えとして、この水準までいくべきであるという思いから、努力目標として設定したこと自体は、ある意味よく理解できる。ただし、本来は「いつまでにどうする」という計画があり、それを明確にしたものが、目標である。その目標が数値化されたものが「数値目標」である。今後の「数値目標」の設定については、単年度の事業目標も含め、中期経営的な視点から、計画そのものを整理してみはどうか。

近藤事務局長 ご指摘のとおり、次回の「数値目標」の設定にあたっては、財団として何をしていくべきか計画を見直し、改めて検討していく。

## ②次回の予定について

益子総務担当係長から、今後の理事会日程について3月に定時理事会を予定している旨の連絡があった。

午前10時50分、磯崎議長が閉会を宣言し会議は終了した。